

人文学部卒業研究

題 目 お笑い芸人の漫才はなぜ面白いのか

指導教授 山本明

印

提出年月日 2018年 12月 12日

学籍番号 HI15059

氏 名 村井春

お笑い芸人の漫才はなぜ面白いのか

HI15059 村井春

要旨

本研究は、漫才で笑いを発生させるために効果的な方法を研究するものである。これまで笑いの原理については多くの研究があり、漫才を例に挙げる研究は多く存在したが、漫才で笑いを発生させるためにどのような手法が有効的なのかを具体的に検討した研究は少なかった。本研究では、よしもとミュージックエンタテインメントから発売されている DVD、「M-1 グランプリ the FINAL PREMIUM COLLECTION 2001-2010」、「M-1 グランプリ 2015 完全版 漫才頂上決戦 5年分の笑撃～地獄からの生還…再び～」、「M-1 グランプリ 2016 伝説の死闘！～魂の最終決戦～」の優勝コンビの最終決戦ネタを対象に漫才で用いられている手法について検討を行う。

第1章では「漫才」の発祥から現在に至るまでの歴史について記述し、既に先行研究で明らかになっている笑いの原理や笑いの手法についてまとめている。

第2章では、研究課題と研究方法について記述する。

第3章では、漫才の内容分析を行う目的とその方法をまとめ、結果と考察について記述した。分析の結果、漫才で使用される笑いの手法はコンビごとに様々なものが用いられているが、特に多く使用される傾向がある笑いの手法があることがわかった。中には笑いの手法の組み合わせを用いるコンビも見られた。また、「身体的動作」や「音の補完」を行うことによって観客に与える情報量を増やすことで、笑いの原理である「2つの概念の対比」をより明確にすることで笑いが発生する確率を高めていることが明らかになった。他にも漫才では「しゃべくり漫才」よりも「コント漫才」が多く使用される傾向にあることがわかった。これは「しゃべくり漫才」よりも「コント漫才」の方が現実ではありえないような設定を、漫才の中に自然に落とし込むことができるからだと考えられる。その結果、笑いにおいて重要な「2つの概念の対比」を容易に行うことができるのである。

終章では本研究の結論と今後の展望について記述している。結論として、上記で記したように漫才には笑いを発生させるために効果的な方法が存在していると言える。それは「笑いの手法の組み合わせ」や「身体的動作」、「音の補完」や「漫才の形態」である。

今後の課題として、漫才を行う場所や笑わせる対象などの条件を統一することによって結果の偏りを減らし、分析対象を増やすことによって多くのデータを集め分析や比較を行うことで、笑いを発生させる方法をより詳しく導くことができると考える。

キーワード

笑い、漫才、ボケ、しゃべくり漫才、コント漫才

目次

序章 はじめに	1
第1節 本研究の目的と意義	1
第2節 本論文の構成	1
第1章 先行研究の概観	2
第1節 漫才とは	2
第2節 笑いの原理	2
第3節 笑いの手法	6
第2章 研究課題と研究方法	8
第1節 研究課題	8
第2節 研究方法	8
第3章 漫才の内容分析	9
第1節 目的	9
第2節 方法	9
第3節 結果	10
第4節 考察	38
終章 結論	40
第1節 研究成果の確認	40
第2節 本研究の反省と展望	40
参考文献	41
参考サイト	41
付録1 分析項目と分析対象	i
付録2 各お笑い芸人の最終ネタのトランスクリプト	ii